

第4次行財政改革前期実施計画(案)に対するこれまでの委員意見とその反映状況

<これまでの委員意見>

意見01 職員への意識啓発・理念浸透について

- (1) 行革はシステムチックにするものだけではなく、目の前の仕事からも生まれるものなので、**意識啓発**をお願いしたい。(推進本部)
- (2) 価値を浸透させるためには、**大綱に繋がるグッドケースを収集、具体的な事例共有**できれば、前に進んでいる実感に繋がり全庁的なムーブメントになる。(行革審)
- (3) より具体的なものを途中段階で共有することで、自分たちが前に進んでいる実感に繋げる、価値を確認するプロセスが大事。(行革審)

意見02 実施計画の進め方について

- (1) 部分最適ではなく、**全体最適の視点**をもって進めてほしい。(特にDX)(推進本部)
- (2) 実施計画ではやるべきことを網羅的に書くのではなく、**どういう進め方をしていくのかが必要**。計画を作ることが目的ではなく、計画を示してアクションを起こしながら具体的に進めるために、**「やるべきことの検討」「優先順位をつける」「重点化する」**ことの記載が必要。その中で**モデル的なものを実証的にやって成功事例として全庁的に広げていく**というレベルのものでよい。(行革審)
- (3) 各局から提案していただいたのはよいが、積み上げ式なので「できること」しかない。ボトムアップを認めつつ、理想像を示してトップダウンでやっていけば革新的になる。(行革審)

意見03 効果の達成確認について

- (1) 個票の指標設定について、**しっかりとPDCAを回して**指標の見直しをしてほしい。(推進本部)
- (2) 4つの基本方針に対しての施策があるが、**どういう効果を出したいのか**ということがわかる成果指標づくりをしてほしい。(推進本部)
- (3) 4年後の成果指標を数値化し、具体化すれば、**施策自体が目的達成に繋がっているか**が見えてくる。**基本理念という大目的に立ち返ったときに振りかえるときに、繋がっているかの視点**が必要。(行革審)
- (4) 施策に掲げているものにおける課題をきちんと認識できていないのに取組は出てこない。実施計画を進めながら、**ロジックモデル**を作ることが必要。(行革審)

意見04 行政DXの進め方について

- (1) **行政DXの推進にあたっての仕事のやり方を改めていくという切り口、働きかけが必要**。「税務業務におけるDXの推進」だけではない。(推進本部)
- (2) 手続きのオンライン化ではなく、やるべきことはオンライン申請で受け取った後の手続き。大切なのは、どの入り口から入ってきても役所に情報が入ってくる時にはデジタル化で一元化されていて、内部の審査業務がデジタルで完結しているということ。**業務改善から始めず、システムだけ入れると失敗しやすいので注意が必要**。原課の理解を得るのは大変だが、**困りごとは沢山あるので一緒に考えるアプローチが必要**。(行革審)
- (3) **「仕事の仕組みを変える」の施策の柱が3つDX**になっている。最終的にDX化するということはあると思うが、DXの検討をする前に、仕事を見直しておかなければいけない。**3つともDX絡みというの**はどうかということで検討する必要がある。(行革審)
- (4) 職員の負担の増加を何とかしなければならぬ。職員が減っていくなかで事務量を減らしていかなければ回らないということを上の方に認識してもらおう。(行革審)

<実施計画への反映>

- 1 職員の意識啓発や全体最適の進め方について、組織全体のパフォーマンス向上に向けた進め方とし、職員が「なぜやるのか」を意識していけるよう明記した。(実施計画p12)

(1) 組織全体のパフォーマンス向上に向けたリーディングプロジェクトの支援と水平展開

- これまでの行財政改革は、所管課が主体となって積極的に取り組んできたが、課単独では見直しが困難な課題等もあり、見直し自体も小規模な見直しにとどまりがちになるなど、見直しの余地が少なくなっている。
- そこで、**優先的に取り組む項目を定め、スモールスタートやリーディングプロジェクトを実施しながら成功事例を積み上げていく**ことで、組織全体のパフォーマンス向上に繋げる。
- リーディングプロジェクト等の実施に向けては、計画立案等の検討段階において静岡市行財政改革審議会委員等をアドバイザーとして外部意見を取り入れるなど、行財政改革部門がコーディネートし、推進していく。
- 成功事例については、「**なぜやるようになったのか**」という**着眼点**や成功に至るまでの経緯を共有するワークショップを開催し、他の職場でも展開しやすくなるような機会を提供する。

- 2 改革の理念浸透や基本理念に向けた達成確認ができるような進捗管理をしていくよう、明記した。(実施計画 p12)

(2) 職員全員が改革の理念を意識できる進め方への転換

- 実施計画の進捗管理にあたっては、取組の進捗状況や成果指標を確認するだけでなく、改革の**基本理念や基本方針に立ち戻って効果を確認する**。
- 現状や課題を踏まえ、目的達成のためにより効果的な取組がある場合は、取組自体を修正し、あるいは新たな取組を追加するなどの計画改訂を行い、変化のスピードがより激しくなる社会に柔軟に対応していく。
- 全体の進捗については、市の行財政の改善合理化についての調査審議等ための附属機関である「静岡市行財政改革推進審議会」に報告し、専門的な知見から助言等をいただきながら、基本理念に向かって着実に前進していく。



- 3 優先的に取り組む項目として、**行政DXを位置づけ**、特に行政手続きのオンライン化と業務の簡素化・効率化に向けた**業務改革(BPR)**の推進について全庁的に取り組むこととした。(実施計画 p13-15)